

令和8年度森田思軒顕彰講演会

森田思軒と民友社

白石家伝来の書簡から

民友社は、徳富蘇峰が1887年に創設した明治中期の有力な青年結社です。民友社が発行した『国民之友』には、森田思軒の翻訳作品が数多く掲載されました。この度の講演会では、笠岡市に寄託されている思軒宛書簡（白石家所蔵）によって、民友社との密接な関係を復元し、思軒の文学者・編集者としての仕事ぶりを紹介していきます。

講師 馬場美佳 氏

(筑波大学人文社会系 教授)

日時

11/14[土] 14時～
15時30分

会場

笠岡市立図書館

2階 多目的室 [岡山県笠岡市六番町1-15]

申込：電話、メール、WEBフォームから

●10月1日(木)から受付開始

申込・問合せ：笠岡市生涯学習課

〒714-0081 岡山県笠岡市笠岡 1866-1

電話 0865-69-2155

Eメール syougaiyakusyu@city.kasaoka.lg.jp



↑ 申込み用の
WEBフォームは
こちらからの

入場
無料

定員
50人

要
申込

主催：笠岡市教育委員会

講師 馬場美佳 氏プロフィール

● 博士 (文学)、専門は日本近代文学 (明治文学)

筑波大学大学院博士課程修了。筑波大学大学院人文社会科学研究科博士特別研究員、北九州市立大学文学部比較文化学科准教授、ロンドン大学 SOAS 客員研究員を経て、現職。

■ 著書

『「小説家」登場―尾崎紅葉の明治二〇年代』(笠間書店 2011年)

共著『文体史零年 文例集が映す近代文学のスタイル』(文学通信 2025年) ほか多数。

■ 論文

「十九世紀後半の大英帝国文化圏における物語流通と『郵便報知新聞』― R. デイビー著「王妃の冒険」から森田思軒訳「女旅客」へ」(『比較文学』61巻 2019年)

「森田思軒宛書簡紹介―成文堂・佐藤乙三郎編―」(『稿本近代文学』49集 2026年)

「自作する思軒―「印度太子舎摩の物語」と自叙体小説の定義―」(『国語と国文学』103巻7号 2026年) ほか多数。



森田思軒翻訳の『十五少年』
[1899年(明治32)]

翻訳文学の先駆者

もり た し けん
森田思軒



森田思軒

『十五少年 (漂流記)』、フランスの小説家ジュール・ヴェルヌの作品で、多くの人々がご存じのこの冒険小説を、明治時代に翻訳したのが森田思軒です。36年間の短い生涯の間に、翻訳家、ジャーナリスト、批評家などとして活躍しました。

1861年(文久元)に、備中国小田郡笠岡村(現在の笠岡市笠岡)で生まれました。

1882年(明治15)に郵便報知新聞社に入社。1885年(明治18)には欧米諸国に巡遊し、その間に『龍動(ロンドン)通信』、『西洋風俗記』などを同新聞に発表して好評を博しました。帰国後、誰もが読みやすい紙面を目指し、連載小説欄の「報知談叢」を新設して、自らも翻訳小説を発表しました。そのかわり、徳富蘇峰が主宰する『国民之友』にも数多くの翻訳作品を寄稿していました。

思軒は、フランス文学のヴィクトル・ユゴーの小説「探偵ユーベル」、「死刑前の六時間」、ジュール・ヴェルヌの「十五少年」のほか、イギリスのチャールズ・ディケンズ、アメリカのエドガー・アラン・ポーなどの小説を翻訳し、西洋文学の面白さや魅力を多くの人に紹介しました。

1897年(明治30)に腸チフスがもとで亡くなりました。臨終には親交があった森鷗外が立ちあいました。

思軒は東京都台東区根岸の世尊寺に葬られましたが、分骨して郷里の墓地(笠岡小学校の北側)に墓が建てられました。墓石正面に「思軒森田文蔵之墓」と、側面に略伝が刻まれています。



国民之友 148号
[1892年(明治25)]



笠岡市立笠岡小学校
北側の墓地にある
市指定史跡 森田思軒の墓